U.S. Indicators

発表日：2018 年 10 月 17 日（水）

米国　18 年9月鉱工業生産

～自動車やハイテク関連が生産をけん引～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト　桂畑　誠治（TEL：03-5221-5001）

	鉱工業生産		製造業 (NAICS)	鉱業	公益	ハイテク関連	除ハイテク関連	自動車関連	設備稼働率 全産業	製造業 (SIC)	生産能力
17/09	▲0.0	(+1.2)	▲0.1	+1.3	▲0.8	+0.9	▲0.1	+1.3	+75.7	+74.2	+0.1
17/10	+1.5	(+2.7)	+1.3	+1.4	+3.2	+1.7	+1.3	+0.9	+76.8	+75.2	+0.1
17/11	+0.5	(+3.4)	+0.2	+2.0	+0.3	+1.1	+0.3	▲0.3	+77.1	+75.3	+0.1
17/12	+0.5	(+2.9)	▲0.0	+1.1	+3.2	+1.4	▲0.1	+0.7	+77.3	+75.2	+0.1
18/01	▲0.3	(+2.8)	▲0.5	▲1.0	+2.1	▲0.2	▲0.7	▲0.4	+77.0	+74.7	+0.1
18/02	+0.5	(+3.7)	+1.5	+2.8	▲9.6	▲0.6	+1.7	+4.0	+77.2	+75.7	+0.1
18/03	+0.5	(+3.6)	▲0.1	+1.1	+4.2	+0.6	▲0.2	+2.8	+77.5	+75.6	+0.2
18/04	+1.1	(+3.8)	+0.6	+0.9	+5.8	+0.5	+0.7	▲2.1	+78.2	+75.9	+0.2
18/05	▲0.8	(+3.0)	▲0.9	+1.0	▲2.6	▲0.0	▲1.0	▲8.5	+77.5	+75.1	+0.2
18/06	+0.6	(+3.6)	+0.7	+1.8	▲1.5	+1.5	+0.7	+7.1	+77.8	+75.5	+0.2
18/07	+0.3	(+4.1)	+0.3	+0.8	▲0.0	▲0.3	+0.3	▲2.4	+77.9	+75.7	+0.2
18/08	+0.4	(+4.9)	+0.3	+0.4	+1.1	+0.3	+0.2	+4.3	+78.1	+75.8	+0.2
18/09	+0.3	(+5.1)	+0.2	+0.5	▲0.0	+0.6	+0.2	+1.7	+78.1	+75.9	+0.2

(注)ｶｯｺ内は前年比

18 年９月の鉱工業生産は、前月比＋0.3%（８月同＋0.4%）と市場予想の同＋0.2%を上回った（４－８合計で 0.1ｐ下方改定)。鉱業が原油価格の上昇を受け拡大を続けるなかで、公益事業が前月比▲0.0%と減少に転じたほか、製造業が自動車・ハイテクの拡大によって前月比＋0.2%（３－７月合計 0.2%ｐ上方改定）と市場予想の同＋0.2%と一致したものの前月の同＋0.3%から鈍化したため、鉱工業生産は減速した。ＦＲＢの試算によると、ハリケーンフローレンスの鉱工業生産への影響は、0.1%弱にとどまった。

ただし、３ヶ月移動平均・３ヶ月前対比年率では、鉱工業生産が＋3.3%（前月＋3.3%）と高い伸びを維持したほか、製造業生産が＋2.8%（前月＋2.1%）と加速しており、生産の拡大モメンタムは力強さを増した。米国の生産活動は、関税引き上げ合戦など貿易戦争の影響を受けながらも、内外需要の拡大によって堅調さを維持していると判断される。

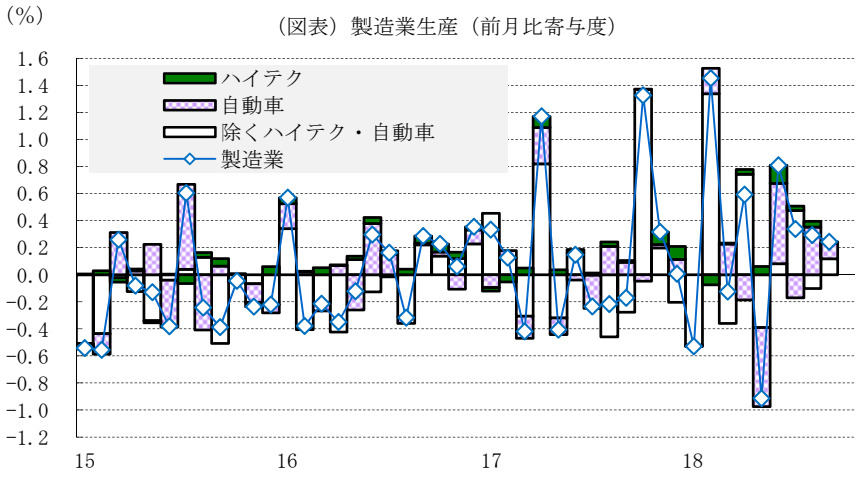
業種別にみると、電気設備・部品、その他耐久財、繊維、化学が減少に転じたうえ、非鉄が減少幅を拡大した。また、食品・飲料・タバコ、アパレルが減少を続けた。さらに、加工金属が鈍化した。

一方、コンピューター・電子機器、家具・関連製品、紙、印刷・同サポート、その他製造業が拡大に転じたほか、木材、航空機・その他輸送設備、石油・石炭が加速した。また、自動車・同部品、一次金属、一般機械は鈍化したものの、堅調さを維持した。さらに、プラスチック・ゴム製品は前月の落ち込みから、前月比変わらずと改善した。

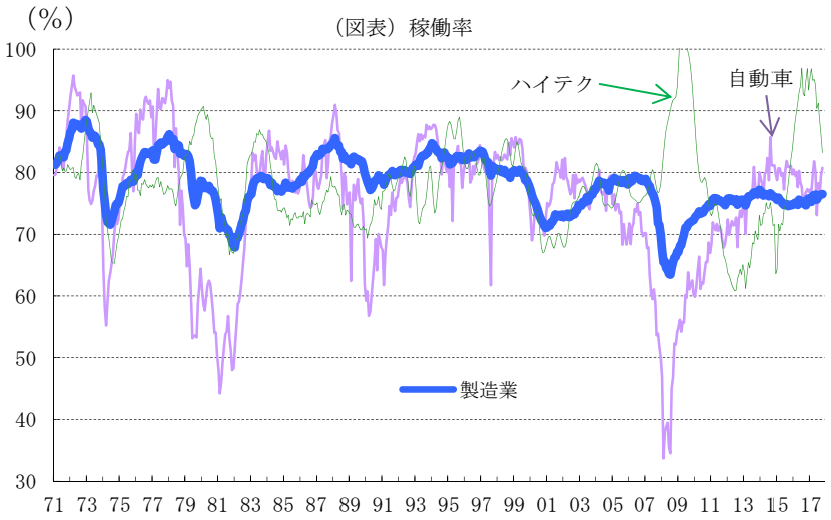
稼働率では、設備投資の加速による生産能力の拡大が続いた一方、生産が増加したことを背景に鉱工業全体が 78.1%（前月 78.1%）と変わらず（市場予想 78.2%)。また、製造業は生産の拡大によって 75.9%（前月 75.8%）と上昇した。

四半期でみると、７－９月期の鉱工業生産は前期比年率＋3.3%と４－６月期の同＋5.3%から減速した。製造業生産が７－９月期に前期比年率＋2.8%と４－６月期の同＋2.3%から加速したものの、鉱業が鈍化したほか、公益事業が減少に転じた。７－９月期の製造業では、国内需要の好調が維持する中、自動車が４－６月期の部品供給業者での大規模火災によるトラック組み立ての混乱が収束したことによって増加に転じたほか、コンピューター、一般機械、一次金属、加工金属、電気設備・部品等の拡大持続を背景に、製造業生産は堅調さを維持している。

18 年の生産活動は、高い水準のドル実効レートや貿易戦争によるコスト増加の影響を受けながらも、内外需要の拡大傾向の持続や原油価格が昨年よりも上昇すると予想されること、在庫に過剰感がないこと等を背景に小幅加速すると見込まれる。18 年の製造業生産が＋2.3%（17 年＋1.2%）、鉱工業生産が＋3.8%（同＋1.6%）と予想する。



（出所）ＦＲＢデータより当社作成　　（年/月）



（出所）ＦＲＢ

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。